



平成30年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年10月6日

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス

上場取引所 東

コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 グループ企画室長 (氏名) 松尾 俊幸

TEL 03-5651-8800

四半期報告書提出予定日 平成29年10月10日

配当支払開始予定日

平成29年11月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第2四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第2四半期	97,689	4.5	2,136	126.1	2,448	107.7	1,290	18.0
29年2月期第2四半期	93,481	0.5	945	20.7	1,178	20.6	1,574	137.4

(注) 包括利益 30年2月期第2四半期 1,165百万円 (745.4%) 29年2月期第2四半期 137百万円 (74.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第2四半期	19.99	
29年2月期第2四半期	24.40	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第2四半期	116,108	57,762	49.4
29年2月期	114,947	57,209	49.4

(参考) 自己資本 30年2月期第2四半期 57,302百万円 29年2月期 56,744百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期		10.00		10.00	20.00
30年2月期		10.00			
30年2月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	202,000	7.1	4,400	135.9	5,100	85.4	2,100	68.2	32.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期2Q	65,129,558 株	29年2月期	65,129,558 株
期末自己株式数	30年2月期2Q	579,645 株	29年2月期	608,107 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期2Q	64,532,201 株	29年2月期2Q	64,523,302 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年8月31日まで)の連結業績は、連結売上高が976億89百万円(前年同期比4.5%増)、連結営業利益は21億36百万円(前年同期比126.1%増)、連結経常利益は24億48百万円(前年同期比107.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億90百万円(前年同期比18.0%減)と減益になりましたが、これは前期に旧本社事務所譲渡による固定資産売却益を計上した影響によるものであります。

当社グループでは、10年先を見据えた長期ビジョン「NEW BEGINNINGS 2025」の実現を目指し、前期より「3ヵ年中期経営計画」を始動いたしました。当期を含むファーストステージの3年間は、セカンドステージ以降における成長のシーズを生み出す3年間と位置付け、「ひと・健康・テクノロジー」をキーワードに、「飲食業の再定義」を目指し、これまでの飲食業になかった新しい価値創造に向け活動してまいります。中期計画の2年目となる当期につきましては、主要セグメントである吉野家において、積極的な新商品開発を行い、既存店客数の拡大を目指します。国内では、はなまる・京樽を、海外においてはアジアを中心とした出店による成長・規模拡大を進めてまいります。また、セカンドステージを見据え、成長へ向けた実験・検証を積極的に行ってまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

[吉野家]

売上高は、485億74百万円と、対前年同期比0.3%の増収となりました。

増収の主な要因は、冷凍牛丼の具などを販売する外販事業の売上高の増加に加え、Tポイントデータをもとに、お客様の多様なニーズにお応えする商品として「豚スタミナ丼」「沖縄タコライス」などの新商品を積極的に導入したことや、朝食時間帯の活性化策として「ハムエッグ定食」「釜揚げしらすおろし定食」、夏の定番商品として「麦とろ牛皿御膳」を販売したこと等であります。さらに、外食チェーンとして初めてとなる機能性表示食品「サラシア入り牛丼の具」を通販ショップにて販売するとともに、店舗においては「サラシア牛丼」や夏季限定商品として半日分の野菜が摂れる「ベジ牛定食」等の健康メニューを積極的に販売いたしました。また、新規顧客層の獲得や生産性向上、従業員労働負荷の軽減を目的として次世代店舗の実験を行っており、今後も新しい店舗モデルの構築に向け実験店を拡大し、検証を進めてまいります。セグメント利益は、アルバイト時給の上昇や社会保険の適用拡大等による人件費の増加等があったものの、増収および売上原価の低減により、19億65百万円と、対前年同期比22.1%の増益となりました。同期間の店舗数は、12店舗を出店し、19店舗を閉鎖した結果、1,196店舗となりました。

[はなまる]

売上高は、136億10百万円と、対前年同期比13.9%の増収となりました。

増収の主な要因は、積極的な出店に伴う店舗数の増加であります。今後も、駅前や駅ナカなどへの新立地およびショッピングセンター内への出店を進めてまいります。また、4月には全店規模の大型販促「天ぷら定期券」の実施に加え、3月よりリリースしたスマートフォン向け「はなまるうどん公式アプリ」が、8月には20万ダウンロードを達成し、お客様に対する新たなアプローチ方法としてご好評をいただきました。さらに、季節商品として4月には「特選海鮮松前漬けのとろ玉ぶっかけ」、6月には讃岐うどんとともに香川県の名産品のひとつであるそうめんを使用した「うどん県のそうめん」を販売し、8月には人気TV番組とコラボした「ビリビリサンラーうどん」を期間限定で販売し、多くのお客様からご支持をいただきました。今後もお客様満足度の向上につながる販売促進および商品開発に努めてまいります。セグメント利益は、増収等により、10億15百万円と、対前年同期比51.2%の増益となりました。同期間の店舗数は、28店舗を出店し、4店舗を閉鎖した結果、454店舗となりました。

[アークミール]

売上高は、114億99百万円と、対前年同期比1.2%の減収となりました。

既存業態の客数回復策として、前期までは毎月29日に開催していた「肉の日」を2日、9日の2日間に開催日を増やし、また、新規顧客の獲得策として、6月と8月には「フォルクス」と「ステーキのどん」において、「ステーキ食べ放題」キャンペーンを実施いたしました。さらに、各業態プラスワンメニューの拡充を図り、「ステーキのどん」は、「リプロイスタンプカード」を、「しゃぶしゃぶどん亭」は、「ホリデーランチ」の「日替わり・週替わりメニュー」を導入いたしました。また、3月にはTポイントを導入し、価値ある商品開発・来店動機の喚起など、

マーケティングデータに基づく、販売戦略強化への取組みを開始いたしました。しかしながら、しゃぶしゃぶ業態における競争の激化による「どん亭」の客数減少の影響等で減収となりました。一方、マネジメント力強化の為の営業組織の再編成等により、原価、人件費の適正化を図り、セグメント利益は2億10百万円と、対前年同期比321.6%の増益となりました。同期間の店舗数は、3店舗を閉鎖した結果、181店舗となりました。

[京樽]

売上高は、133億70百万円と、対前年同期比5.8%の増収となりました。

増収の主な要因は、「海鮮三崎港」を中心とした出店に伴う店舗数の増加に加え、ご好評をいただいているテイクアウト事業における「中巻セール」や“ハレの日”の各セール、外食事業における「本まぐろ祭」「(赤皿)99円セール」、180円皿を充実させた「いっばち祭」等を効果的に実施したことにより、既存店売上高が堅調に推移したこと等であります。回転寿司業態では、産地指定した旬の食材を用いた商品を販売するなど差別化を図りました。また、フードコート立地の開拓に向け、店内釜炊きのお米が主役の丼物新業態「日本橋人形町 釜膳」店を出店いたしました。セグメント利益は、増収等により、2億77百万円と、対前年同期比691.4%の増益となりました。同期間の店舗数は、13店舗を出店し、10店舗を閉鎖した結果、332店舗となりました。

[海外]

売上高は、95億25百万円と、対前年同期比17.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、アメリカや中国等の売上高が好調に推移したことや積極的な出店により海外店舗数が増加したことに加え、前年第2四半期より吉野家シンガポールを直営化したこと等であります。セグメント利益は、アメリカや台湾で人件費が上昇したことや、出店や改装に伴う減価償却費の増加があったものの、増収及び売上原価の低減により6億72百万円と、対前年同期比10.4%の増益となりました。同期間の店舗数は、54店舗を出店し、11店舗を閉鎖した結果、776店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ11億61百万円増加し、1,161億8百万円となりました。これは主として、建物及び構築物(純額)が10億57百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ6億8百万円増加し、583億46百万円となりました。これは主として、1年内償還予定の社債が7億50百万円、1年内返済予定の長期借入金が6億17百万円それぞれ減少した一方、長期借入金が増加した20億97百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5億53百万円増加し、577億62百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末と同様の49.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)は、既に公表しておりますものから修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は、「天候」「景気動向」等の様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,474	24,250
受取手形及び売掛金	3,727	4,276
商品及び製品	3,148	3,247
仕掛品	25	47
原材料及び貯蔵品	2,598	2,420
その他	3,627	4,235
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	38,600	38,476
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	28,362	29,419
その他(純額)	16,816	16,978
有形固定資産合計	45,178	46,397
無形固定資産		
のれん	1,537	1,496
その他	2,338	2,543
無形固定資産合計	3,875	4,040
投資その他の資産		
投資有価証券	4,335	4,196
差入保証金	15,599	15,606
繰延税金資産	1,797	1,694
その他	5,782	5,918
貸倒引当金	△222	△221
投資その他の資産合計	27,292	27,194
固定資産合計	76,346	77,632
資産合計	114,947	116,108

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,053	5,848
短期借入金	5,321	5,304
1年内償還予定の社債	750	-
1年内返済予定の長期借入金	7,397	6,779
リース債務	1,025	1,045
未払法人税等	463	468
賞与引当金	1,362	1,375
役員賞与引当金	71	14
株主優待引当金	296	284
資産除去債務	79	33
その他	10,708	10,291
流動負債合計	32,530	31,446
固定負債		
長期借入金	18,019	20,117
リース債務	2,788	2,520
退職給付に係る負債	624	625
資産除去債務	2,585	2,629
その他	1,188	1,005
固定負債合計	25,207	26,899
負債合計	57,737	58,346
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,551	11,548
利益剰余金	38,035	38,680
自己株式	△744	△710
株主資本合計	59,107	59,784
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	2
為替換算調整勘定	△2,353	△2,470
退職給付に係る調整累計額	△13	△13
その他の包括利益累計額合計	△2,363	△2,481
非支配株主持分	464	459
純資産合計	57,209	57,762
負債純資産合計	114,947	116,108

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
売上高	93,481	97,689
売上原価	34,104	33,975
売上総利益	59,376	63,713
販売費及び一般管理費	58,431	61,577
営業利益	945	2,136
営業外収益		
受取利息	23	19
受取配当金	76	187
賃貸収入	172	201
持分法による投資利益	46	47
雑収入	352	253
営業外収益合計	671	708
営業外費用		
支払利息	128	101
為替差損	95	37
賃貸費用	131	142
雑損失	83	114
営業外費用合計	438	396
経常利益	1,178	2,448
特別利益		
固定資産売却益	1,484	0
関係会社株式売却益	-	0
特別利益合計	1,484	1
特別損失		
減損損失	201	252
契約解約損	7	21
災害による損失	24	-
特別損失合計	233	274
税金等調整前四半期純利益	2,429	2,175
法人税、住民税及び事業税	1,024	769
法人税等調整額	△141	121
法人税等合計	882	891
四半期純利益	1,547	1,284
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△26	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,574	1,290

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
四半期純利益	1,547	1,284
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	△1
為替換算調整勘定	△1,135	△119
退職給付に係る調整額	2	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△272	2
その他の包括利益合計	△1,409	△118
四半期包括利益	137	1,165
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	190	1,172
非支配株主に係る四半期包括利益	△52	△6

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,429	2,175
減価償却費	2,830	3,028
のれん償却額	108	106
貸倒引当金の増減額(△は減少)	41	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	60	13
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△43	△54
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△11	△11
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△3	0
受取利息及び受取配当金	△99	△206
支払利息	128	101
持分法による投資損益(△は益)	△46	△47
固定資産売却損益(△は益)	△1,484	△0
減損損失	201	252
売上債権の増減額(△は増加)	△851	△699
たな卸資産の増減額(△は増加)	△186	44
仕入債務の増減額(△は減少)	47	966
未収入金の増減額(△は増加)	△301	△425
未払消費税等の増減額(△は減少)	△100	△605
その他	594	390
小計	3,313	5,029
利息及び配当金の受取額	152	256
利息の支払額	△130	△96
法人税等の支払額	△861	△786
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,473	4,402

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△25	△134
定期預金の払戻による収入	58	515
有形固定資産の取得による支出	△4,482	△4,265
有形固定資産の売却による収入	2,981	22
無形固定資産の取得による支出	△288	△363
資産除去債務の履行による支出	△55	△128
差入保証金の差入による支出	△429	△437
差入保証金の回収による収入	266	379
貸付けによる支出	△130	△64
貸付金の回収による収入	84	77
関係会社株式の取得による支出	△34	△3
関係会社出資金の払込による支出	△27	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△539	-
その他	3	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,619	△4,402
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△511	△601
短期借入金の純増減額 (△は減少)	158	△11
長期借入れによる収入	9,700	5,500
長期借入金の返済による支出	△4,143	△4,020
社債の償還による支出	-	△750
配当金の支払額	△647	△643
非支配株主からの払込みによる収入	108	-
その他	△1	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,663	△527
現金及び現金同等物に係る換算差額	△465	△50
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,052	△578
現金及び現金同等物の期首残高	18,498	22,941
会社分割に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	△202
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,550	22,160

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	47,924	11,826	11,637	12,562	8,095	92,046	1,434	93,481	—	93,481
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	485	126	6	78	—	696	302	999	△999	—
計	48,410	11,953	11,644	12,640	8,095	92,743	1,736	94,480	△999	93,481
セグメント利益	1,609	671	49	35	609	2,975	7	2,983	△2,038	945

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社7社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,038百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,019百万円、セグメント間取引消去56百万円及びのれんの償却額△75百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	48,068	13,483	11,465	13,285	9,525	95,829	1,860	97,689	—	97,689
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	506	126	33	84	—	750	289	1,040	△1,040	—
計	48,574	13,610	11,499	13,370	9,525	96,580	2,149	98,729	△1,040	97,689
セグメント利益	1,965	1,015	210	277	672	4,141	43	4,185	△2,048	2,136

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社8社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,048百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,093百万円、セグメント間取引消去132百万円及びのれんの償却額△87百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。